

レポート・論文の組み立て方

指定された本を読み、そこから問題を見つけ出し、レポートにまとめる方法

2018年11月27日改訂／戸口民也

長崎外国語大学「日本語リテラシー科目」3年生科目のためのシラバス、また授業で学生たちに配布したプリントや注意したことなどをもとに、まとめ直しました。

例1

テキスト①濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書、2015年

テキスト②森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書、2015年

- ・テキスト①と②で取り上げられていることのなかから自由に「問題」を見つけ出し、「テーマ」を設定して書く

レポートのまとめ方

「問題」を見つけ出し、「テーマ」を設定するには(例)

- ・「貧困スパイラル」 → 「貧困スパイラル」を止めるにはどうすればよいか？
- ・「No」と言える労働者 → なぜ、また何のために「No」と言える労働者にならなければいけないのか？
- ・貧困ビジネス → 「貧困ビジネス」とはなにか？ なぜ問題なのか？ 貧困ビジネスの横行を防ぐには何をすべきか？
- ・格差社会 → 格差の拡大はどこからくるのか？ 格差の進行がどういう問題を生じさせるのか？ 格差の拡大をどう食い止めるか？ (短期的にはどういう解決策が考えられるか？ 中・長期的にはどういう方向を目指すべきか？) → 橘木俊詔『格差社会』を良く読み、解決策のヒントを第5章(同書155頁以降)から見つけだすとよい

テーマが見つかったら

1. 「どういうこと」が問題なのか、事実(参考文献・資料・データ)を用いて説明し、
2. 「なぜ」それが問題なのかを指摘し、
3. そうした問題が生じた「原因」を確認し、
4. 問題を解決するためには「何」が必要か、「どう」すればよいかを論じ、解決策を示しなさい。

レポートの題名：選んだテーマ(序論と結論に反映される)に応じて、自分で決めること。必要なら副題もつけてよい。

忘れてはならないこと

- ・本文の後に、参考文献表を必ずつけること。
(参考文献はテキスト①、②を含め、5点以上必要)
- ・参考文献から引用するときはもちろんのこと、参考文献をふまえて説明や主張をするときも、必ず出典を明示すること。
(参考文献からの引用も、参考文献への言及も一切ないレポートは「不可」です)
- ・剽窃(他人の文章を、出典を示さず使う)——これは泥棒行為で、絶対にしてはいけません！

例2

テキスト①：竹信三恵子『しあわせに働ける社会へ』岩波新書、2012年

テキスト②：濱口桂一郎『若者と労働——「入社」の仕組みから解さほぐす』中公新書ラクレ、2013年

- ・テキスト①と②で取り上げられていることのなかから自由に「問題」を見つけ出し、「テーマ」を設定して書く

レポートのまとめ方

「問題」を見つけ出し、「テーマ」を設定するには（例）

- ・ワークライフバランス → 仕事と生活のバランスがとれるような労働環境をつくりだすためにはどうすればよいか？
- ・「労働の手すり」 → 「労働の手すり」が腐ったのはなぜか？ この問題を解決するには何をすべきか？
- ・ブラック企業 → 「ブラック企業」はなぜ問題なのか、「ブラック企業」の横行を許さぬためにはどうすればよいか？
- ・非正規雇用の問題 → 非正規労働者の不安定で劣悪な労働条件を改善するにはどうすればよいか？ 短期的にはどういう解決策が考えられるか？ 中・長期的にはどういう方向を目指すべきか？ → 濱口桂一郎が『若者と労働』第7章（同書 235 頁以降）で示唆しているように、「ジョブ型正社員」という形の「受け皿」を用意することが当面の対応策として考えられるのではないか？（中・長期的に目指すべき方向は？）

テーマが見つかったら

（ここから先は例1と同じ）

例3

テキスト①筒井淳也（2015）『仕事と家族』（中公新書）

テキスト②濱口桂一郎（2011）『日本の雇用と労働法』（日経文庫）

- ・テキスト①と②で取り上げられていることなかから自由に「問題」を見つけ出し、「テーマ」を設定して書く

レポートのまとめ方

「問題」を見つけ出し、「テーマ」を設定するには（例）

- ・仕事と家族 → 日本の出生率の低下の要因を探り、そのことが及ぼす影響についてまとめ、解決策を考える
- ・日本型雇用制度 → 日本型雇用制度の何が今問題となっているか？ どのような変化がどのような問題を生じさせているのか？ 問題をどう解決するか？

テーマが見つかったら

（ここから先は例1と同じ）

----- 注意すべきこと -----

- ・問題が絞れていない人が多い。「漠然としすぎ」「テーマが大きすぎる」
例えば「仕事と家庭について」というような漠然としたテーマでレポートをまとめの難しい → 「仕事と家庭生活の両立（ワークライフバランス）」を阻んでいるものは何か？ それを確認し、「仕事と家庭生活の両立」が可能になるようにするためには何が必要か？ どうすればよいか？ を考え、解決策を示す。
→ そのためには、テキストだけでなく、他にも参考文献を調べ、問題を把握し、それらの文献で提案されている解決策をふまえながら、自分が納得できる解決策を見つけ出す。
（ゼロから自分一人だけで考えていても、解決策はおろか、問題を把握することさえできない。参考文献——つまりその問題の専門家——にあたり、学ぶ必要がある）
- ・精神論／主観論はダメ
「私たち一人ひとりの心構えが大切だ」「皆がよく勉強し、問題が起こらないようにしなければならぬ」 → 言葉だけ。これでは問題は解決しない。
- ・一般論／抽象論はダメ
「問題の改善を考えることが大事だ」 → 問題をどう解決するのか、具体的に示さないといけない。
→ その「問題」にどう取り組むべきか、どういう改善策が考えられるかを具体的に提示する必要がある。

----- 考えるヒントとアドバイス -----

考えるプロセス

- ・いま、こういうことが問題となっている／問題である
- ・問題の根はどこにある？ 何が原因か？
- ・仕組み、システムが悪いのはなぜか？（たいていは法律の不備が問題の根にある）
- ・その仕組み、システムを改善する／改めるには、どうすればよいか？（たいていは法改正、あるいは新たな立法措置が必要になる）
- ・すべきこと、できること（中長期的な取り組みが必要なこと、短期的にとるべき方策など）を具体的に示して、自分の主張をまとめなさい

たとえば「ブラック企業」を問題として選んだとする。

- ・ブラック企業が社員に過酷な長時間労働を強いているという事実がある
- ・なぜそんなことがまかり通っているのか？
社員の意識の問題もあるだろうが、長時間労働を規制するしっかりとした法律がないことも問題
- ・社員——またわれわれ自身——の問題意識・自覚も大事だし、社員自身が自分の健康・生命を守るために「何か」をしなければならない

だが、それだけではだめ。

- ・長時間労働を規制する法律、また違反企業を取り締まり、摘発し、罰則を科すようなシステムや、悪質な企業を告発する情報開示制度（公的あるいは私的な情報公開機関・組織）も必要になるだろう
- ・社会的にブラック企業の存在を許さない労働環境・法制度・システムを構築しなければ、ブラック企業は後を絶たないだろう

そのためには、どういう方策があるか？

- ・ブラック企業について論じた論文、論説記事、本を読み、考え、そこで提案されている解決手段や対策、方策をリストアップしなさい
- ・そして、そのなかから、これだと思ふ方策を選び、提案しなさい
- ・その際には、必ず著者名、論文名（書名）、ページなどの出典を示すこと。誰が、どの本の何ページで書いていることかを明らかにしつつ（引用と注のつけ方を学ぶこと）、自分もその考えに同意すること、そのひとが主張（提案）するように、この問題を解決するには「・・・」する必要があることをはっきり主張するように

レポートを書くときの注意

主張の根拠を必ず具体的に示してから、意見を述べなさい。たとえば以下のように

- ・この問題の根は、誰々が述べているように（出典を示す）、***というような法律上の抜け穴があることにある。
- ・また、別の誰々が指摘しているように（出典を示す）、****ということも合わせて考えるべきだろう。
- ・だから、この問題を解決するためには、誰々が提案しているように（出典を示す）、****が必要である。